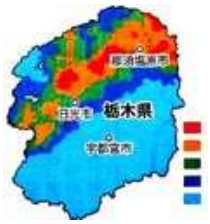
放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.06.08//no.32

子どもたちの被ばく線量調査で
県は最初から『安全宣言』が目的！
危険な低線量被ばく明らかに！ - １



赤10～30万,黄6～10万
緑3～6万、紺1～3万
水色～1万 ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値

〈ミリシーベルト＝mSv、マイクロシーベルト＝μSv〉

6月2日、県の「放射線による健康影響に関する有識者会議」は、3054人の子どもたちを対象にした外部被ばく放射線量積算調査（01.23～03.22）結果と見解を発表。

マスコミは、県、有識者会議の意向を受けてか「健康障害心配なし」「障害出るレベルでない」･･･と、『安全宣言』ともとれる報じ方です。また、調査の結果、最も低い線量、2カ月で 0.1ミリシーベルト未満 45.3%（1383人）が一番多かったと強調しました。

しかし、2 カ月で 0.1mSv 未満でも、年 0.6mSv、0.2 で 1.2mSv、0.4 で 2.4mSv です。この結果は、子どもたちへの長期低線量被ばくの危険性が明らかな被ばくです。政府の除染計画 0.23μSv/h（年1mSv）は成人対象で、子どもたちは、この基準の2～5倍敏感です。低線量被ばくの健康への危険を提唱している「ヨーロッパ放射線リスク委員会」の年間 0.1mSv の基準を、少なくとも考えていきたいです。

子ども被ばく線量測定の市町別人数分布

市町名	2カ月間の累積線量（単位:ミリシーベルト）					総計
	0.1未満	0.1	0.2	0.3	0.4	
佐　野	337					337
鹿　沼	130	25				155
日　光	79	281	4			364
大田原	37	217	9	1		264
矢　板	117	170	3			290
那須塩原	5	333	224	35	3	600
塩　谷	102	121				223
那　須	2	159	80	5		246
下　野	296					296
市　貝	278	1				279
総　計	1383	1307	320	41	3	3054

⇐図〈06.03-下野〉

＊　＊　＊　＊　＊

さて、「有識者会議」は、『放射能への県民の不安払しょくのため』に、7人の委員は、県に都合のいい人たちです。それらを具体的に日光市教育委員会が説明しています。

「有識者先生方の判断は、最初に『栃木県内の健康被害は考えられない』ことが前提なんです。ただし、放射線の事でみなさん不安を感じているでしょうから、8市町（汚染状況重点調査地域）の地域から、（昨年）5月に県が線量測定した時に、高かった地域の学校を県が選んで測定し、目に見えるような形で公表すれば『高いところでも、ぜんぜん問題ないんだよ』との、話ができるだろうと始まった事業なんです。」（1月30日）

最初から県、「有識者会議」は、子どもの健康-放射能被ばくを心配していません。

日光市の該当するゾーンは？

❑チェルノブイリ･ゾーン　❑〈1999.ナスビット論文より〉

①　移住義務ゾーン	5mSv/年以上
②　移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③　放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援。
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域。

❖年1mSv/時 0.114μSv/公衆被ばく限度基準/ICRP
*内部被ばく含まず、成人対象/妊婦、乳児など敏感無視

❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
〈日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提、* など〉
❑栃木県原発崩壊前//0.038～0.044μSv/h❑

日光市放射能汚染分布
2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm

マイクロシーベルト/以上～未満		
0.1 未満	1 ヶ所	0.2%
0.1～0.2	155 ヶ所	28.8%
0.2～0.3	187 ヶ所	34.8%
0.3～0.4	152 ヶ所	28.3%
0.4～0.5	30 ヶ所	5.6%
0.5～0.6	10 ヶ所	1.9%
0.6～0.7	2 ヶ所	0.4%
0.7～0.8	1 ヶ所	0.2%

〈News〉日光市は「水」も「空気」も「食べ物」も安全でした〈日光安全だった宣言〉

❑汚染実態、日本では目隠し? 韓国-水産物の輸入規制/青森、岩手･日本の検査で基準超、北海道、三重、愛媛、長崎、熊本は韓国でセシウム検出。規制15都道県。

❑日光-汚染/山菜出荷停止で直売所不振、県の検査が市内1カ所への不満。検査の細分化を県に要望。〈0606-下野〉　**食の安全考え、なぜ、市が全品検査やらない！？**

❑下水道汚泥･日光、町谷の鬼怒川上流浄化センター、県内で最も高く 470 ベクレル

❑9月9日、自転車で走るイベント「ツール･ド･NIKKO2012」〈日光市観光振興課〉
日光市役所･鬼怒川･龍王峡ライン･五十里湖･大笹牧場･霧降･小百/**放射能難所で**!

❑「**子ども被災者支援法案**」、子どもや妊婦の医療費負担や減免で与野党一致。しかし、広島の被爆者と同じく、福島県内とか、放射線量で線引きがされる可能性大です。

脱原発１０００万人署名に協力ください!!
１次集約/6月6日　722万2297人//❖署名は継続しています❖

放射能は危険　放射能汚染地帯で生活続けるチエ

❑全食品、食材の検査が大事です。行政の責任でやるべきです。
基準値以下でも、特に、子ども、女性、若者には食べさせない。汚染ゼロを!
食べるものは、汚染されていない県、地域のものに心がけましょう。
同産地、同じ食品は食べ続けない。全ての放射線量測定をして安全が確認できない中では、汚染されるものを食べ続けないためのチエです。

❑うららかな春。花壇、家庭菜園、楽しみですが土は汚染されており避けたいです。
もし、やるとすれば、手袋、マスクをしてください。終わった後は、よく手を洗い、うがいをしましょう。服や靴の土･ほこりなどを取ってください。

❑放射能の危険から子どもを守る//高い線量の所には近づかない。マスクをする。
「保養」「一時避難」「疎開」「移住」など考える。相談体制を検討。行政の支援要求。

❖チラシ･バックナンバー見られます//PDF　http://atsugichild.web.fc2.com/
〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288-26-0130//nairamdal-1871@dream.jp

お勧め！！癒しの夏プログラム〈母子保養 in 北海道〉
心と身体のリハビリに大自然パワーを！！
〈チェルノブイリへのかけはし・留寿都〉

推せん//ドイツから「ふるさと日光へ」/ Baum

日光は、放射能汚染地帯になりました。特に、妊婦や乳幼児などは、疎開を考えた方がよいです。日光市は「安全」を叫ぶだけです。そんな中でも、子どもたちの健康を守るためには、少しでも外部被ばく、内部被ばくを減少させ、ゆとりある開放的な自然の環境でのひと時を過ごし、心と身体をリフレッシュの3週間、母子保養をお勧めします。

- ❖ 期　日　7月5日から8月27日//期間内で3週間保養できる方
- ❖ 場　所　北海道　留寿都（札幌から西南に50キロ程）//廃校の教室利用
- ❖ 費　用　現地までの交通費（札幌からバス往復 4080 円）
- ❖ 滞在費//年収500万以下（収入により、3000 円、15000 円、18000 円）
- ❖ 参加資格　福島原発事故で被災した地域の母子（子どもは 0～6 才）
- ❖ 申　込　6月15日～20日　uketuke@kakehashi.or.jp　tel 011-511-3680

チェルノブイリの子育てをしている私達には、数値の高低ではない。放射能はあるか、ないかが身にしみています。福島原発事故で被災されているお母さんたちの癒しの場がようやくひとつできました。今回は0才から6歳の母子中心のプログラムです。

北海道にいらしていただくからには3週間みっちり保養していってほしい。うむ、ちょっと長いかもしれません。廃校を利用したプログラムです。おいしい空気と水と、大きな山と、ビルのない青い空をご堪能くださいませ。　「かけはし」

❑「NPO 法人チェルノブイリへのかけはし」（略称：「かけはし」）

「かけはし」は、1992年（1999年、現NPO法人）に設立。1986年に旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発事故で被災した子どもたちを、日本に招待し健康回復をはかる“保養里親運動”、被災地への様々な救援活動を行なっています。「子どもたちを放射能汚染のない土地で暮らさせてあげたい…それが私たちの願いです。」

2010年まで648名のベラルーシ共和国の子どもたちの保養（1～3 カ月）を受入。

日光市は放射能汚染地帯！〈雨どい地上 1cm〉-8　❑土　沢❑(4～5 月)

＊Dさん宅　毎時0．552マイクロシーベルト　＊Eさん宅　0．624μSv/h
＊Fさん宅　①　3．083μSv/h　②　3．519μSv/h

❑幼児、子どもなどは、日光市内に5年、10年‥住み続けると健康への危険が高まる　no19
❑日光市内観光業者は、東電(政府)から損害賠償金56億6千万円受理　(03.05 時点)　no21
❑日光の線量値、3月9日からなぜかグ～ンと低下-文科省、高精度測定器-自動化で？　no21
❑日光市放射能汚染分布(2012.02-03) アスファルト測定で平均線量24％減少と誤魔化し安全宣言？日光のセシウム合計は、半年で約7％減少し、それ以外はどこかへ移動しただけ！no.26

放射性物質汚染の基準値は、『安全基準』じゃないですよ！！

〈単位/1kg、又は、1L当たりのベクレル//Bq/kg、Bq/L〉

一般の食品中に含まれる放射性物質セシウムの基準値は、4月1日から、飲料水 10 ベクレル、牛乳 50 ベクレル、一般食品 100 ベクレル、乳児用食品 50 ベクレルです。また、米、牛肉は9月末まで、大豆は12月末まで 500 ベクレルです。この基準値は、『安全基準』ではありません。国によって基準は違い、シンガポールは放射性物質禁止です。

県の農産物検査は初出荷時に各市町1点で、安心できません。全ての検査と公表が必要です。そして、妊婦、乳幼児、幼児、子ども、若い女性は、『ゼロ』とすべきです。

❖〈飲料水〉1 リットル当り、ベクレル=Bq/L❖

アメリカ合衆国法令基準	0.111 ベクレル	ウクライナ	2 ベクレル
ドイツ・ガス水道協会	0.5 ベクレル	ベラルーシ	10 ベクレル

放射能汚染地帯で健康で生き抜くチエ-1
放射性物質を吸収しやすい野菜・果実

放射能汚染地帯で、少しでも被ばくを減少させて、健康に気を使って生きていくためのチエが大切です。以下の表は、野菜と果物の放射性物質を吸収しやすさの比較です。数値は、「**りんご**」を 1 とした時の数値です。目安にしてください。

そして、放射性セシウムは、水に溶けやすく、よく洗い、皮をむき、ヘタなどは普段より多めに切ること、再度、きれいに洗うことで 1/5 から 1/2 減少させることができます。

サツマイモ	33	レタス	6.7	いちご	1.5	トマト	0.7
ソラマメ	12	人参	3.7	**りんご**	**1.0**	ほうれん草	0.54
じゃがいも	11	白菜	2.7	キャベツ	0.92	玉ねぎ	0.43
きゅうり	6.8	ねぎ	2.3	ぶどう	0.79	メロン	0.41

参考「自分と子どもを放射能から守るには」〈注/統計上の数値で、様々な条件で差が出ます〉

〈放射能の危険!〉見たり聞いたり話したり
短い保養でも子どもたちはリフレッシュ

〈Y さん〉

チェルノブイリの子どもたちは、被ばく量によって、年間1ヶ月とか2カ月保養するため非汚染地帯で生活していると聞きます。

私たち家族も、それくらいの期間を西日本で過ごさせたいのですが、うちの場合は3人の子で、一番下が1才、あれやこれやと用事で、なかなかまとめて遠くでの保養できないんです。ほんっと、いろいろ考えると難しくて、最近胃が痛くなることが多いです。

長野への短期の保養ですが、効果は、外部被ばく線量は明らかに減っています。なるべく線量の少ないところで過ごし、汚染されていない食品を食べることを心がけました。できることしかできないんだけど、これでうちの子、大丈夫かな？と、また、心配です。おいしい空気を吸って、子どもたちは、同じ宿に泊まった友だちと外で遊んでリフレッシュしてきましたよ。放射能によるストレス解消は、リフレッシュできる環境が一番です。